

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：稼働率・生産能力指数(2006年4月)

発表日：2006年6月13日(火)

～高水準の稼働率、低水準の生産能力が設備投資を下支え～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 長谷山 則昭

TEL：03-5221-4525

(単位：%)

		稼働率指数						生産能力指数						
		製造工業		電子部品・デバイス		輸送機械		製造工業		電子部品・デバイス		輸送機械		
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	
04	1-3月	0.1	6.0	0.3	13.3	▲1.5	3.7	▲0.5	▲1.7	0.8	2.5	▲0.1	▲1.2	
	4-6月	1.9	5.7	0.6	15.3	4.3	6.5	0.1	▲1.0	4.2	5.5	▲1.9	▲2.4	
	7-9月	0.3	5.6	▲4.6	2.7	▲0.7	5.2	▲0.1	▲0.7	1.5	7.3	▲0.7	▲2.7	
	10-12月	▲0.2	2.2	▲5.0	▲8.5	0.3	2.9	0.0	▲0.5	2.5	9.3	0.1	▲2.6	
05	1-3月	0.9	1.5	1.2	▲8.5	2.8	5.1	▲0.2	▲0.2	0.3	8.7	1.0	▲1.5	
	4-6月	1.1	2.3	0.7	▲8.0	0.4	3.2	0.1	▲0.2	1.9	6.3	▲0.2	0.2	
	7-9月	▲1.4	0.3	3.7	0.6	▲4.8	▲2.2	0.2	0.1	1.0	5.8	0.4	1.3	
	10-12月	2.3	2.6	4.5	9.8	2.9	0.9	0.4	0.5	3.5	6.8	1.2	2.5	
06	1-3月	▲0.6	1.7	1.7	11.3	1.3	0.4	▲0.1	0.6	▲0.2	6.3	0.0	1.5	
05	4月	2.6	2.2	0.6	▲8.7	4.8	4.6	0.0	▲0.5	1.1	6.8	0.0	▲1.5	
	5月	▲1.9	2.6	▲1.0	▲9.5	▲7.0	3.5	0.1	0.0	0.5	5.8	▲0.2	1.4	
	6月	0.5	2.1	2.6	▲5.9	1.9	1.6	0.1	0.0	0.5	6.3	▲0.1	0.8	
	7月	▲1.4	▲1.3	0.8	▲3.0	▲3.4	▲3.6	0.0	0.1	0.0	5.5	0.0	0.8	
	8月	0.4	1.5	2.3	0.7	▲1.7	▲0.9	0.0	0.0	0.8	6.0	0.0	0.8	
	9月	0.2	0.8	▲0.1	4.4	2.5	▲1.6	0.3	0.3	0.2	6.0	1.8	2.3	
	10月	0.9	2.1	2.1	7.1	▲1.7	▲3.6	0.2	0.5	3.1	7.0	0.0	2.3	
	11月	1.3	2.3	1.0	10.0	4.5	0.3	0.0	0.5	0.1	7.0	0.0	2.3	
	12月	0.9	3.3	2.9	12.3	1.6	6.7	▲0.1	0.4	▲0.2	6.5	0.2	2.7	
	06	1月	▲0.8	1.5	0.5	12.8	▲3.8	▲2.0	▲0.1	0.5	▲0.1	6.7	▲0.1	1.5
		2月	▲0.9	2.5	▲1.6	10.5	2.6	0.2	0.0	0.5	0.0	6.4	0.0	1.5
		3月	▲0.3	1.3	0.1	10.5	2.9	2.4	0.1	0.7	▲0.2	5.8	0.0	1.5
4月		2.4	1.0	▲1.8	7.1	4.7	1.4	0.1	0.8	1.6	6.3	0.0	1.5	

(出所)経済産業省「鉱工業指数」

○ 稼働率は前月比+2.4%と4ヶ月ぶりに上昇

4月の稼働率指数は前月比+2.4%と4ヶ月ぶりに上昇した。業種別にみると、15業種中9業種で上昇し、6業種で低下した。

上昇した業種を見てみると、自動車輸出が好調な輸送機械工業が前月比+4.7%（前月同+2.9%）と3ヶ月連続で上昇に寄与した。また、電気機械工業が同+11.4%（前月同▲13.2%）、化学工業が同+6.1%（前月同▲6.5%）と前月の反動もあって上昇している。一方、電子部品・デバイス工業は同▲1.8%（前月同+0.1%）と、生産の減少および生産能力の向上から低下した。もっとも、生産の減少によって在庫も減少していることを考えれば、4月の電子部品・デバイス工業の稼働率の低下は悪い面ばかりではない。IT関連財の出荷・在庫バランスがやや悪化傾向となっているためW杯後には在庫調整に陥る懸念があるが、電子部品・デバイス工業の稼働率の低下や生産の減少によって、夏場以降に大幅な調整に陥るリスクがやや後退したと考えることも可能であろう。

先行きについても生産予測指数が5月は前月比+0.2%、6月は同+1.3%となっているように、生産の増大傾向が持続する可能性が高いことを踏まえると、稼働率指数は今後も高水準で推移すると考えられる。

○ 高水準の稼働率が設備投資を下支えし、低水準の生産能力は設備投資を息の長いものに

最近公表された設備投資関連の指標からは、総じて好調であることが示された。設備投資の先行指標である機械受注は内閣府見通し（4-6月期は前期比▲2.5%）ではマイナス成長が見込まれていたが、4月は前月比+10.8%と事前予想を大きく上振れる高い伸びとなった。また、昨日公表されたGDP2次速報値でも大幅増加した1-3月期の法人企業統計季報を反映して設備投資が上方修正となっており、景気回復の牽

引役となっている。過剰債務の調整が終了や期待成長率の上昇に加えて、高水準での稼働率が続いていることも設備投資の下支え要因となっているものと思われる。

また、4月の生産能力指数は前月比+0.1%、前年比では+0.8%となった。業種別にみれば、電子部品・デバイス工業が前月比+1.6%と上昇したほかは、総じて横ばい圏内であった。競争の激しい電子部品・デバイス工業では生産能力の向上が続いているものの、製造業全体としてみれば上昇テンポは緩やかである。このように生産能力指数も上昇しているとはいえ緩やかなペースであることから、ストック調整圧力が高まっている状況ではない。生産能力は引き続き低水準であることから、ストック調整の高まりによって設備投資が大きく減速するリスクは小さいと考えられる。

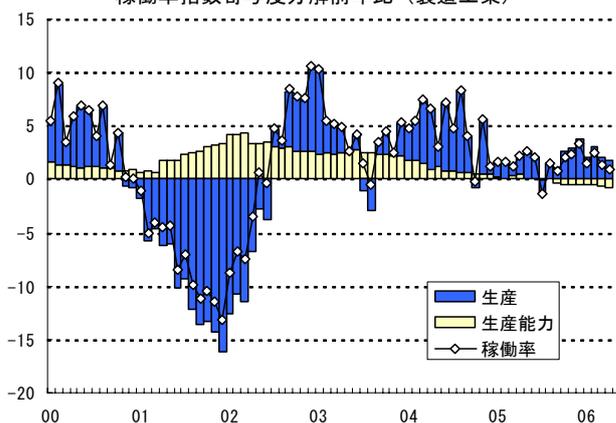
○ 生産指数（確報）は速報段階から0.1%ポイントの下方修正

4月の鉱工業生産指数確報は、前月比+1.4%と速報段階から0.1%ポイントの下方修正。出荷は同+2.6%と変わらなかったため、3月の在庫指数は同▲0.2%（速報同▲0.1%）と小幅下方修正された。在庫率は同▲0.5%（速報同▲0.5%）と速報時と同様の結果となった。速報段階では調査されていない医薬品などが確報で反映された結果、生産は小幅下方修正されたものの、生産の増加トレンドを変えるものではない。4-6月期も生産は増加基調を辿ると考えられる。

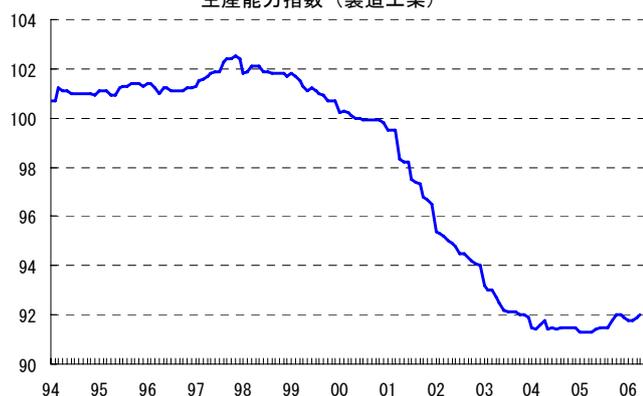
設備稼働率（季調値、指数）



稼働率指数寄与度分解前年比（製造工業）



生産能力指数（製造工業）



生産能力指数・電子部品・デバイス（季調値）

